第4ブロック研究部　No. 1

令和７年度　研究主題

遊びの中の学びを探る

幼児は、遊びながら様々なことを感じ、興味を広げていく。そして、遊びを通して多くのことを学んでいる。

このことから遊びの中の学びを読みとり、実践に生かしていく教師の力量が求められる。

本研究部では、幼児の姿から遊びの中の学びを探り、遊びを充実させていけるように意図をもって働きかけ、教師の質の向上を目指していく

研究園

五条　真田山　味原　大江　生魂　鶴橋
常盤　長吉　長吉第二　瓜破北　加美北

第１回部会

令和7年5月21日（水）　長吉幼稚園リズム室

第4ブロック研究部研究主題「遊びの中の学びを探る」を受けて、各園が考える今年度の研究の進め方を発表しあった。“学び”を小学校教育の前倒しではなく、幼児が主体的に遊ぶ中で気付くことや繰り返し試す姿などと共通理解し、教師の働きかけについても探りながら、分析していくことを共有した。その後、講話を聴き、研究主題への理解を深めた。

『遊びの中の学びを探るために』

大阪市総合教育センター　教育振興担当　指導主事

（１）“幼児の姿を捉える”ということについて考える

・はじめに、１枚の写真を見て、そこにある幼児の姿から、幼児の興味関心・感情・行動・人との関わりなどについて読みとり、話し合いをした。その後、生成ＡＩを使い、同じ写真から幼児の姿についてや今後の遊びの展開予想、「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」との結びつきについてなどをあげていった。

・生成ＡＩを利用すると、このように文章であげることができる。しかし、それだけではない教師の役割があると考える。

（２）教師の役割とは何か

・幼児が行っている活動の理解者としての役割
・幼児との共同作業者、幼児と共鳴する者としての役割
・憧れを形成するモデル、遊びの援助者としての役割
・子どもの育ちを支えるものとしての役割

（３）子どもの育ちを支えるために

・捉える・・・一人一人の発達や興味を理解する
・見直す・・・環境構成、保育内容、教育課程
・広める・・・保護者、地域への理解を図る
・繋げる・・・幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を手掛かりにして小学校教育へのつながりを意識する

（４）幼児の姿を捉える視点

・行動と背景
何に夢中か、誰とどのように関わっているか、どのような試行錯誤があるか
・子どもの視点の尊重
なぜその遊びを選んだのか、何を感じ表現しようとしているのか
・幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿
到達すべき目標ではない。特別に指導するものではなく、保育の中で自然に身に付けていくもの

（５）終わりに

・幼児の姿を捉えるとは、「信じて待ち、気付き、支える」ことである
・全ての子どもに育ちの芽がある
・幼児を観察し→記録して可視化を行い→共有して多面的に見ること、また保育を振り返り考えることが大切であり、それが質の高い保育を支えることになる

《講話から学んだこと》

・幼児の姿を捉えるということについて、しっかりとできているのか不安があったが、捉える視点を分かりやすく教えていただき、幼児の姿を捉え、保育を見直し遊びを広げ、つなげて考えることの大切さを学んだ。
・生成ＡＩの活用を目の当たりにしてとても勉強になった。と、同時に日々の保育を大切にし、目の前の幼児の姿をしっかりと捉え、幼児の育ちを支えていくことが、ＡＩではなく、教師にしかできないことであると分かった。